

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

秋 季	英文学専攻 博士前期課程	方 式	科 目
		A 一 般	英 語

受験番号 _____

氏 名 _____ (2-1.)

《解答別紙》《辞書使用不可》

- I. 次の問題文を読み、(1)と(2)の問いに答えなさい。

著作権の関係で掲載できません。

Adapted from: Scholes, Robert, Phelan, James, and Kellogg, Robert. *The Nature of Narrative*.
Oxford University Press, 2006.

- (1) 問題文を100字前後の和文で要約しなさい。
(2) 問題文の内容についてあなたの意見を15行程度の英語で述べなさい。

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

秋 季	英文学専攻 博士前期課程	方 式	科 目
		A 一 般	英 語

受験番号 _____

氏 名 _____

(2 - 2)

《解答別紙》《辞書使用不可》

II. 次の問題文を読み、(1)と(2)の問いに答えなさい。

障害の「個人モデル」とは、障害者が経験する社会生活上の不利や困難（ディスアビリティ）は、その人の身体的、精神的、知的特徴（インペアメント）によって生じているとする考え方である。この考え方は、インペアメントの原因を追求し、その治療や回復を図ろうとする領域（たとえば、医学的・心理学的な研究）において採用されてきたものである。加えて、これら領域における知見は障害をめぐる問題全体を覆い尽くすような圧倒的な力をもって、障害者の生を大きく左右してきた歴史をもつ。こうした経緯から、障害の「個人モデル」は「医療モデル」とも呼ばれる。

さて、(a)こうした「個人モデル（医療モデル）」のもとでは、障害者が何かが「できない」のはインペアメントのせいであり、この意味でインペアメントは個人にとって、また時には社会にとっても「良くないもの」「避けるべきもの」（すなわち「害」）であると意味づけられてきた。これに対し近年、インペアメントを「害」として把握すること自体が、障害者に対するスティグマ（負の烙印）をもたらし、してきたのではないかと指摘がなされている。この指摘に対する応答のひとつとして登場したが、「障がい」というひらがな表記である。したがって、ひらがな表記を「正しい」と考える人たちも、実は障害の「個人モデル」の視点自体は共有している、ということになる。

これに対し、二つの障害者団体は、「個人モデル」の視点そのものに対して異議を申し立てている。彼ら／彼女らの立場からすれば、障害者が「社会参加の制限や制約」を経験しなければならないのは「社会がカベを作っている」からにはかならない。つまり、ディスアビリティの原因はインペアメントではなく、社会のつくられ方の側にあるのだ。このように、問題の原因を障害者「個人」の側ではなく「社会」の側に見出そうとする考え方のことを、障害の「社会モデル」と呼ぶ。

こうした「社会モデル」の考え方のもとでは、「障害」は特定の心身状態にある人たちの社会参加を阻む「障壁（バリア）」という意味に読み換えられる。(b)「障害」をもっている人がいるのではない。特定の人たちに対して不当に「障害」（「障壁」）を押しつけている社会が存在しているのである。このように考えれば、社会が障害者に押しつけている「障害」（「障壁」）を取り除き、障害者の社会参加を保障することこそが重要な問題となる。それにもかかわらず、「害」の文字をひらがなに置き換えてしまうと、それは社会の側に根深く存在している不当性をごまかすことになってしまう。一部の障害者団体が「障害」表記を用いないことのほうが問題だと主張するのは、こうした理由からである。

飯野由里子「思いやり」から権利保障へ——ディスアビリティをめぐる「正しい」見方
『ポリティカル・コレクトネスからどこへ』所収 （有斐閣、2022年）

一部改変あり

- (1) 下線部 (a) と (b) を英文に訳しなさい。
- (2) 全文の内容を6～7行の英文に要約しなさい。

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

春 季	英文学専攻 博士前期課程	方 式	科 目
		A 一 般	英 語

受験番号 _____

氏 名 _____

(2 - 1)

《解答別紙》《辞書使用不可》

I. 次の問題文を読み、(1) と (2) の問いに答えなさい。

著作権の関係で掲載できません。

Izumi, S. (2003). "Comprehension and Production Processes in Second Language Learning: In Search of the Psycholinguistic Rationale of the Output Hypothesis". Applied Linguistics 24/2: 168-196, Oxford University Press.

- (1) 問題文を100字前後の和文で要約しなさい。
- (2) 問題文の内容についてあなたの意見を15行程度の英語で述べなさい。

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

春季	英文学専攻 博士前期課程	方式	科目
		A 一般	英語

受験番号 _____

氏名 _____

(2 - 2)

《解答別紙》《辞書使用不可》

II. 次の日本語を読み、(1)と(2)の問いに答えなさい。

明治のはじめ、西欧の文化を学ぶ必要に迫られて、おびたしい漢字訳外来語が生まれた。英文学者に漢字の素養が深かったこともあって、いまから考えても実に巧妙だと思う訳語がすくなくない。中国へ輸出したものもあるくらいである。しかし、何といっても人工的訳語である。それで外国の文物は移入できると思こんでいたのはおかしいことだ。

外国語のうち訳語がつくられたのはほとんどが名詞であった。動詞などは新たに訳語をつくらなくてもよいと決めたわけでもあるまいが、とにかく、名詞や述語だけの生硬な訳語によってヨーロッパ文化をすくい取ろうとした。(a) これでは目の荒いザルで水を汲むようなものだということに気づくには近代日本は忙しすぎたのである。文化摂取も実は要するに、言語の問題であった。

それは翻訳書を見るとよくわかる。ことに學術書の訳書は申し合わせたように日本語として悪文で、原書よりも難解だが、これは訳者だけの責任ではない。翻訳に使える日本語のきめが荒いから原文の密な組織をすくうことができないのである。

また、(b) 訳語の多くが人造語であるから、歴史の浅いうちは、無機的でニュアンスにも欠ける。切っても血の出る言葉ではない。そういう言葉で表現される翻訳文化はいつまでたっても蓄積しないから、伝統が生まれにくく、つねに新しい流行を追っていかねばならないことになる。

名詞概念の訳語化で手いっぱいであったから、新しい知的表現にはどういう文章法が必要かなどということは問題にもならなかった。おかげで、みんな文章を書くのにひどく苦労しているのである。

外国語の勉強も大切だが、知的表現の手段としては、いかにもお寒い日本語の現状をいつまでも放置しておいてはいけない。ザルならザルで目張りをしなくてはなるまい。それができるのが文化の年輪というものであろう。

外山滋比古 『日本語の論理』 (中公文庫、1987年)

(1) 下線部 (a) と (b) を英文に訳しなさい。

(2) 全文の内容を6～7行の英文に要約しなさい。